

4.9 生態系

<留意すべき地域の環境状況等>

- 土地被覆及び土地利用の状況を見ると、市街地、畑地、屋敷林等の樹林や河川沿いの水辺環境等が分布することから、計画地周辺の環境単位は大きく樹林（主にクヌギ・コナラ群集）、畑地（畑地雑草群落）、水域（不老川）及び市街地の4つに区分されると考えられる。

<調査手法>

調査内容	現地調査			文献調査	備考
	調査方法	調査地域・調査地点	調査期間等		
生態系 予測評価 事項	地域を特徴づける生態系の区分 指標種による生態系の構造	目視観察、他の調査(植物、動物、地形・地質、水象、気象等)による。 1. 調査地域 調査地域は、植物及び動物の調査範囲に準じ、計画地及び周辺200mの範囲とする。 2. 調査地点 調査地域全域とする。	代表的な時期として、春・秋の2季及び他の調査(植物、動物、地形・地質、水象、気象等)による	-	-

<現地調査時期>

既存資料により出現が想定される種の生息・生育状況が把握できる時期とし、動物、植物等その他の調査に加え必要な時期に実施する。

項目	2019年												2020年			
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4			
生態系	●	●	●	●	●	●	●			●	●					

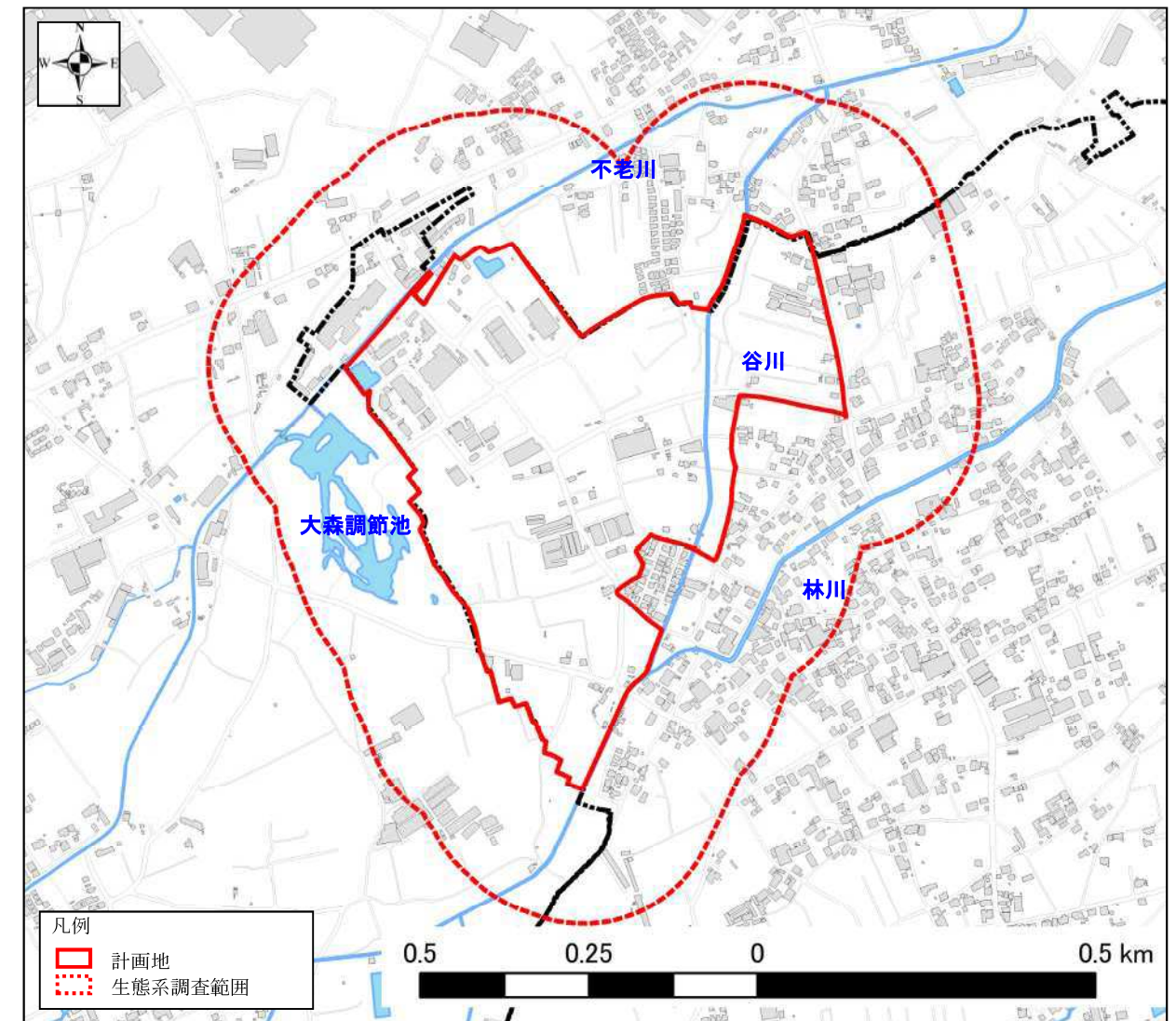
◆地域の生態系を特徴づける種

既存資料により出現が想定される種について留意して調査を行い、地域の生態系の状況を把握する。

動物種	上位性の種		オオタカ・フクロウ・ノスリ・チョウゲンボウ・モズ・キツネ・タヌキ・イタチ		カワウ・サギ類・カワセミ・ナマズ
	典型性の種	カラス・ドバト	カラ類・ヒヨドリ・ネズミ類・モグラ類	カラス・ドバト・ムクドリ・ネズミ類・モグラ類	カモ類・セキレイ類・コイ科魚類・ヨシノボリ水生昆虫類
	特殊性の種				カワセミ(河岸の崖地)
植物種			クヌギ、コナラ、イヌシデ、シラカシ、スマイレ類	イネ科・キク科等の畑地雑草	
土地被覆	市街地	樹林(クヌギ・コナラ群集)	畑地(畑地雑草群落)	水域(河川)	

<調査地点の検討>

- 計画地及びその周辺200mの範囲とし、全域を対象とする。
- 大森調節池は、拡張工事が予定されており、工事に支障をきたさない範囲で調査を実施する。



区分	調査範囲	対象道路・施設等	調査項目	選定理由等
生態系	調査地域全域	計画地及び周辺200m	全項目	計画地及びその周辺において、植物に対する影響が想定される地域とし、動物の生息基盤となることも考慮して、計画地の周囲200mを設定する。

<予測及び評価の手法>

環境影響要因		環境要素	予測の手法				
			予測内容	予測地域・予測地点	予測内容時期等	予測方法	予測の前提条件
工事による影響	工事の実施	地域を特徴づける生態系	直接的・間接的影響による指標種の生息・生育状況の変化の程度 直接的影響として、土地の形状の変更、間接的影響として、資材等の運搬、建設機械の稼働及び切土・盛土・発破・掘削等	1. 予測地域 調査地域と同様とする。 2. 予測地点 予測地域全域とする。	工事による影響が最大となる時期とする。	<ul style="list-style-type: none"> 直接的影響は、対象事業による改変域を把握し、指標種の存続に関わる環境条件及び生物種の改変量を予測した上で、事例の引用又は解析により指標種の生息・生育状況の変化、生物種間の関係性の変化を予測する。 間接的影響は、他の関連する項目の予測結果を踏まえ、生息環境条件の変化の程度等を把握した上で、事例の引用又は解析により予測する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画及び保全対策 将来の他の事業による自然環境の改変の状況
存在による影響	造成地の存在	地域を特徴づける生態系	直接的・間接的影響による生物種間の関係性の変化の程度	1. 予測地域 調査地域と同様とする。 2. 予測地点 予測地域全域とする。	工事が完了し、事業活動が概ね定常状態に達した時期とする。	<ul style="list-style-type: none"> 直接的影響は、対象事業による改変域を把握し、指標種の存続に関わる環境条件及び生物種の改変量を予測した上で、事例の引用又は解析により指標種の生息・生育状況の変化、生物種間の関係性の変化を予測する。 間接的影響は、他の関連する項目の予測結果を踏まえ、生息環境条件の変化の程度等を把握した上で、事例の引用又は解析により予測する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画及び保全対策 将来の他の事業による自然環境の改変の状況

評価の手法		
回避、低減に係る評価	基準又は目標との整合に係る評価	環境の保全に関する配慮方針
指標種の状況によって代表される、地域を特徴づける生態系への影響の回避・低減が最大限図られているか	特になし	<ul style="list-style-type: none"> 計画地内に保全すべき動物種が確認された場合は、必要に応じて改変区域外への移動を容易にする等の環境保全措置を検討し、工事における影響の低減を図る。 計画地内に保全すべき植物種が確認された場合は、必要に応じて移植等の保全措置を検討する。 工事中に発生する濁水については、濁水や土砂流出防止対策を講じることにより、下流域の生物への影響の低減を図る。
	特になし	

4.10 景観

<留意すべき地域の環境状況等>

- 計画地内の景観資源としては、茶畑を中心とした畑、林神社及びその社寺林、不老川及び谷川沿いの緑が挙げられる。
- 計画地周辺の景観資源としては、大森調節池を中心とした緑地、国指定建造物の小野家住宅、松林寺・八雲神社等の社寺が挙げられる。
- 計画地の南東側及び北側は住宅地が近接している。
- 計画地及びその周辺は、おおむね平坦地で、眺望できる地点は見受けられない。
- 計画地北西部の高台からは、斜面林により、計画地への視界はさえぎられている。
- 計画地近傍では、散策コースとして、「林自然ふれあいコース（所沢市）」、「ふれあい茶ん歩道 武蔵野をあるく（入間市）」がある。
- 不老川は、計画地に接する部分は散策できない。
- 計画地西側の大森調節池は、不老川洪水用調節池であり、普段は立ち入ることができない。

<調査手法>

調査内容	現地調査			文献調査	備考
	調査方法	調査地域・調査地点	調査期間等		
予測評価事項	現地踏査、聞き取り調査、写真撮影による。	1. 調査地域 調査地域は、眺望に対する影響が想定される地域とし、植生、地形等を考慮し設定する。 2. 調査地点 調査地域のうち、眺望点として、周辺の集落・景観資源等を考慮し設定する。	季節変化を把握する為、4季とする。	下記の既存測定データを集集、整理する。 ・地形図 ・観光情報	
主な眺望地点の状況	現地踏査、聞き取り調査、写真撮影による。	1. 調査地域 調査地域は、景観資源に対する影響が想定される地域とし、植生、地形等を考慮し設定する。 2. 調査地点 調査地域のうち、周辺の集落で計画地を視認できる地点、周辺の景観資源や散策コース上に設定する。	代表的な時期として、年に1回とする。		
主要な眺望景観の状況	現地踏査、写真撮影による。	1. 調査地域 対象事業により景観に対する一定程度以上の影響が想定される地域とし、植生、地形、建物等を考慮し設定する。 2. 調査地点 調査地点は、調査地域の景観の状況を適切かつ効果的に把握し得る地点とし、可視分析等に基づき抽出する。	季節変化を把握する為、4季とする。		

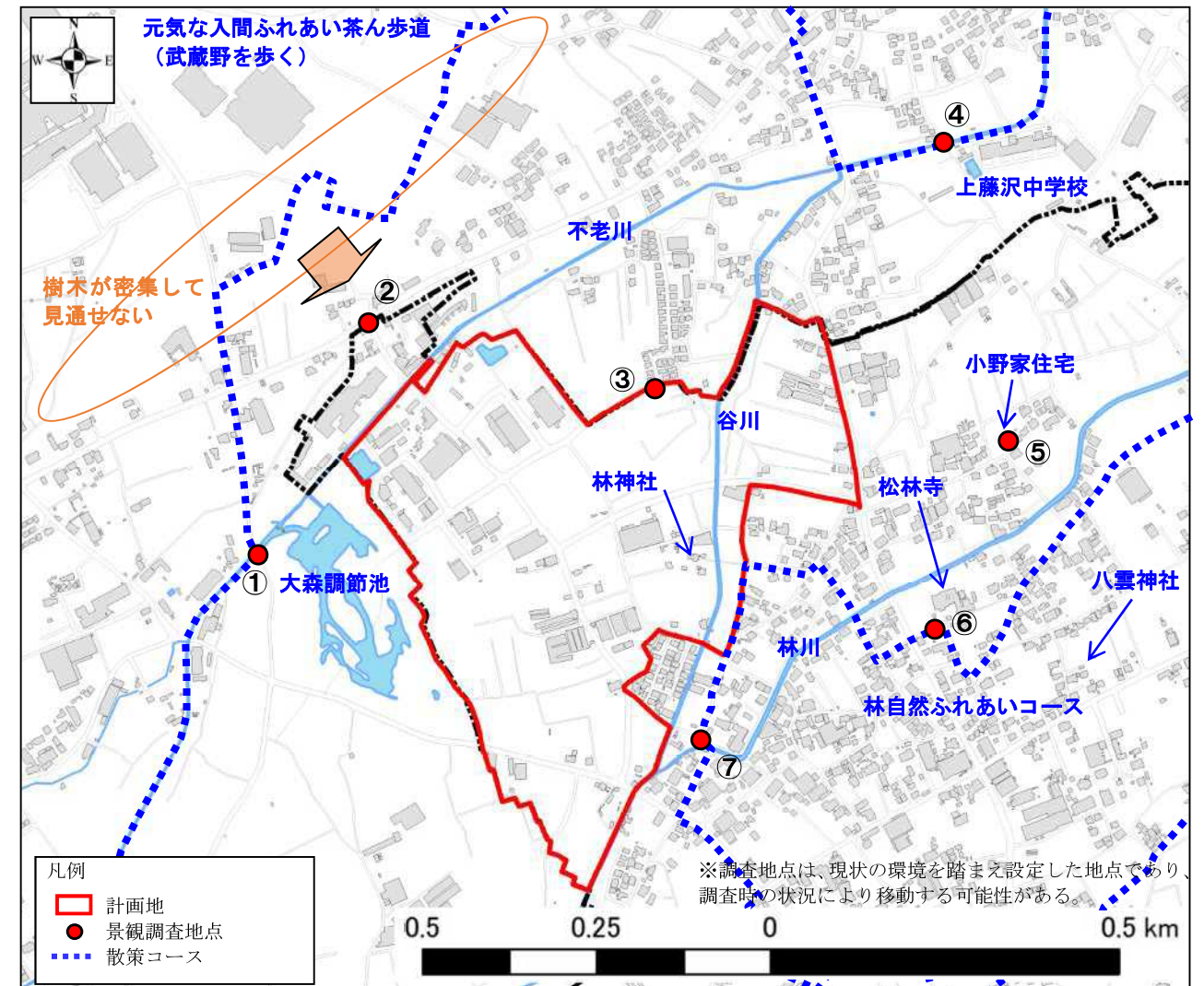
<現地調査時期>

景観資源及び眺望地点の利用など季節変化を把握する為、4季実施する。眺望景観は、代表な時期として年に1回実施する。

項目	2019 年												2020 年			
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4			
景観資源	●			●			●			●						
眺望地点	●															
眺望景観	●			●			●			●						

<現地調査地点>

- 眺望地点は、周辺の集落で計画地を視認できる地点、周辺の景観資源や散策コース上に設定する。



区分	調査地点番号	対象道路・施設等	調査項目	選定理由等
景観資源・眺望地点・眺望景観	①	元気な入間ふれあい茶ん歩道	主要な眺望地点からの景観の状況	計画地の西側の散策コース上より、大森調節池越しに計画地を見通す。
	②	所沢三ヶ島工業団地入口交差点	主要な眺望地点からの景観の状況	計画地の北側の幹線道路より、計画地を見通す。
	③	住宅	主要な眺望地点からの景観の状況	計画地の北側の住宅地より、計画地を見通す。
	④	元気な入間ふれあい茶ん歩道	主要な眺望地点からの景観の状況	計画地の北東側の散策コース上より、計画地を見通す。
	⑤	小野家住宅	景観資源及び主要な眺望地点からの景観の状況	計画地東側の景観資源より、計画地を見通す。
	⑥	松林寺	景観資源及び主要な眺望地点からの景観の状況	計画地東側の景観資源及び散策コース上より、計画地を見通す。
	⑦	林自然ふれあいコース	主要な眺望地点からの景観の状況	計画地南東側の散策コース上より、計画地を見通す。

<予測及び評価の手法>

環境影響要因	環境要素	予測の手法					
		予測内容	予測地域・予測地点	予測内容時期等	予測方法	予測の前提条件	
存在による影響	造成地の存在、施設の存在	景観資源	造成地の存在、施設の存在による主要な景観資源の変化の程度	1. 予測地域 調査地域と同様とする。 2. 予測地点 調査地点と同様とする。	工事が完了した時点とする。	主要な景観資源への影響は、対象事業による改変域等を把握し、調査結果と重ね合わせることで予測する。	・計画及び保全対策 ・将来の他の事業による改変の状況
	眺望景観	造成地の存在、施設の存在による主要な眺望地点からの眺望景観の変化の程度	1. 予測地域 調査地域と同様とする。 2. 予測地点 調査地点と同様とする。	工事が完了した時点とする。	主要な眺望景観及び周囲景観への影響は、モニター写真、コンピュータグラフィックス等により将来の眺望の状況を予測した上で、事例の引用又は解析により、印象の変化等について予測する。	・計画及び保全対策 ・将来の他の事業による改変の状況	

評価の手法		
回避、低減に係る評価	基準又は目標との整合に係る評価	環境の保全に関する配慮方針
地域の景観への影響の回避・低減が最大限図られているか	以下の基準・目標等との整合性が図られているか ・所沢市景観計画	・各進出企業に対し、周囲の環境と調和するデザイン、色彩を採用するよう要請する。 ・圧迫感を与えないよう、高層建築物は誘致しない。

4.11 自然とのふれあいの場

<留意すべき地域の環境状況等>

- ・計画地近傍では、散策コースとして、「林自然ふれあいコース（所沢市）」、「ふれあい茶ん歩道 武蔵野をあるく（入間市）」がある。
- ・不老川は、計画地に接する部分は散策できない。
- ・計画地西側の大森調節池は、不老川洪水用調節池であり、普段は立ち入ることができない。

<調査手法>

調査内容	現地調査			文献調査	備考
	調査方法	調査地域・調査地点	調査期間等		
自然とのふれあいの場 予測評価事項 ふれあいの場の状況	現地踏査、聞き取り及び他の調査（地形、植生等）による。	1. 調査地域 対象事業によりふれあい活動の場に対する一定程度以上の影響が想定される地域とし、地形・地質、植物、動物、景観等の調査範囲を勘案し、適切に設定する。 2. 調査地点 動植物、景観等の結果を踏まえ調査地域を適切に把握できる地点とする。	季節変化を把握する為、4季とする。	下記の既存測定データを収集、整理する ・観光情報 ・公園位置図	

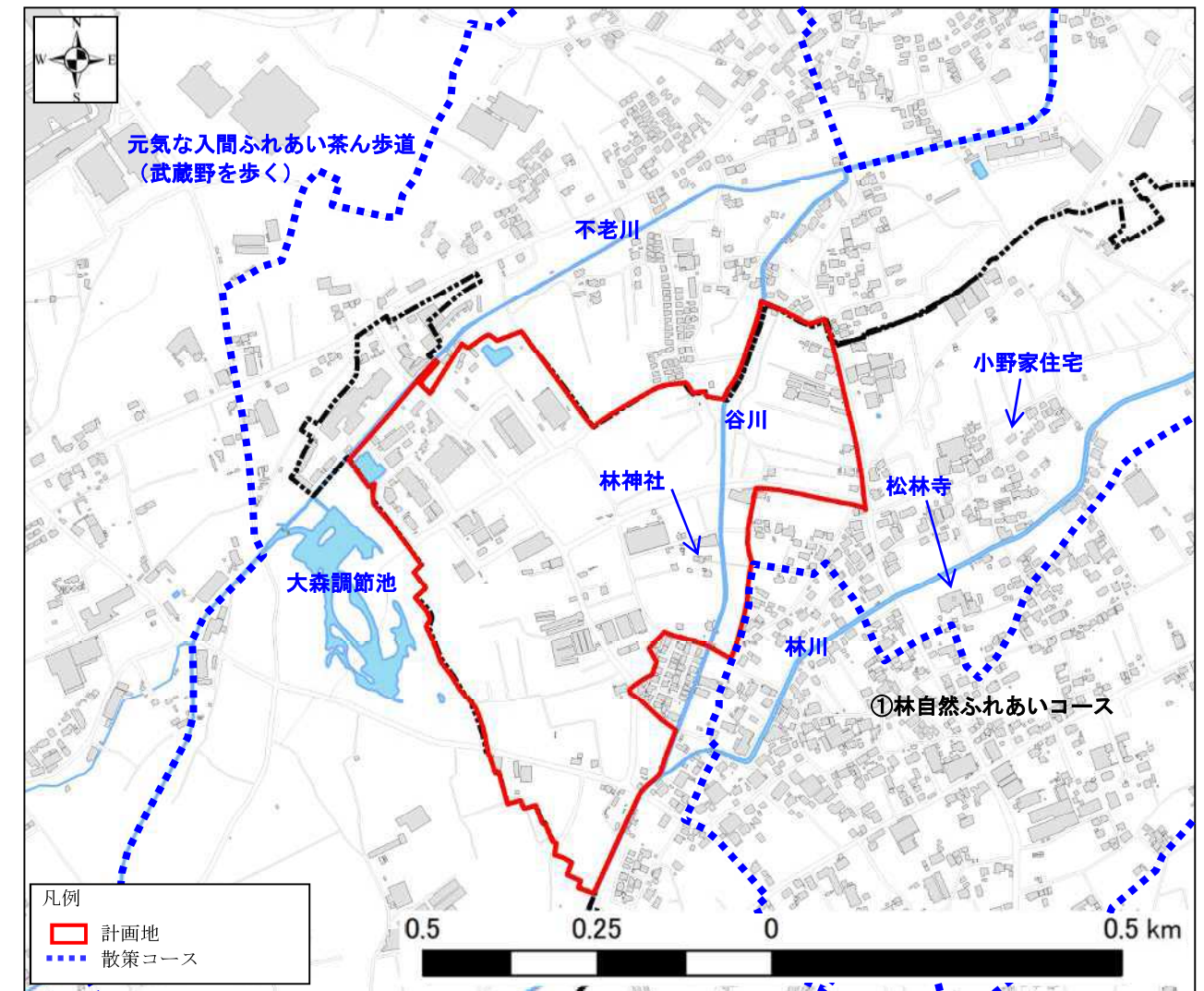
<現地調査時期>

行楽シーズン等、ふれあいの場の利用が想定される時期に実施する。

項目	2019 年												2020 年			
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4			
自然とのふれあいの場	●			●			●			●						

<現地調査地点>

- ・自然とのふれあいの場は、計画地南東側に接する散歩道（林自然ふれあいコース）に設定する。



区分	調査地点番号	対象道路・施設等	調査項目	選定理由等
自然とのふれあいの場	①	林自然ふれあいコース	ふれあいの場の状況	自然とのふれあいの場（散歩道）として選定する。

<予測及び評価の手法>

環境影響要因		環境要素	予測の手法				
			予測内容	予測地域・予測地点	予測内容時期等	予測方法	予測の前提条件
工事による影響	工事の実施	自然とのふれあいの場	ふれあい活動の場及びふれあい活動の場の利用の変化の程度	1. 予測地域 調査地域と同様とする。 2. 予測地点 調査地点と同様とする。	工事による影響が最大となる時期とする。	利用への影響は、対象事業及び他の関連する項目の予測結果等を踏まえ、事例の引用又は解析により、周辺環境の変化や利用の妨げ等の内容及び程度を予測する。	<ul style="list-style-type: none"> 計画及び保全対策 将来の他の事業による改変の状況 将来の他の事業による利用への影響
			ふれあい活動の場及びふれあい活動の場の利用の変化の程度	1. 予測地域 調査地域と同様とする。 2. 予測地点 調査地点と同様とする。	工事が完了した時点とする。	利用への影響は、対象事業及び他の関連する項目の予測結果等を踏まえ、事例の引用又は解析により、周辺環境の変化や利用の妨げ等の内容及び程度を予測する。	<ul style="list-style-type: none"> 計画及び保全対策 将来の他の事業による改変の状況 将来の他の事業による利用への影響

評価の手法		
回避、低減に係る評価	基準又は目標との整合に係る評価	環境の保全に関する配慮方針
地域の景観への影響の回避・低減が最大限図られているか	以下に示す基準又は目標との整合性が図られているか否かについての検討による。 ・「所沢市環境基本計画」 快適な都市環境の創造	・自然とのふれあいの場の利用を妨げないとともに、利便性の向上に資するよう、計画地内の公園緑地の整備に際して留意する。
	以下に示す基準又は目標との整合性が図られているか否かについての検討による。 ・「所沢市環境基本計画」 快適な都市環境の創造	

4.12 史跡・文化財

<留意すべき地域の環境状況等>

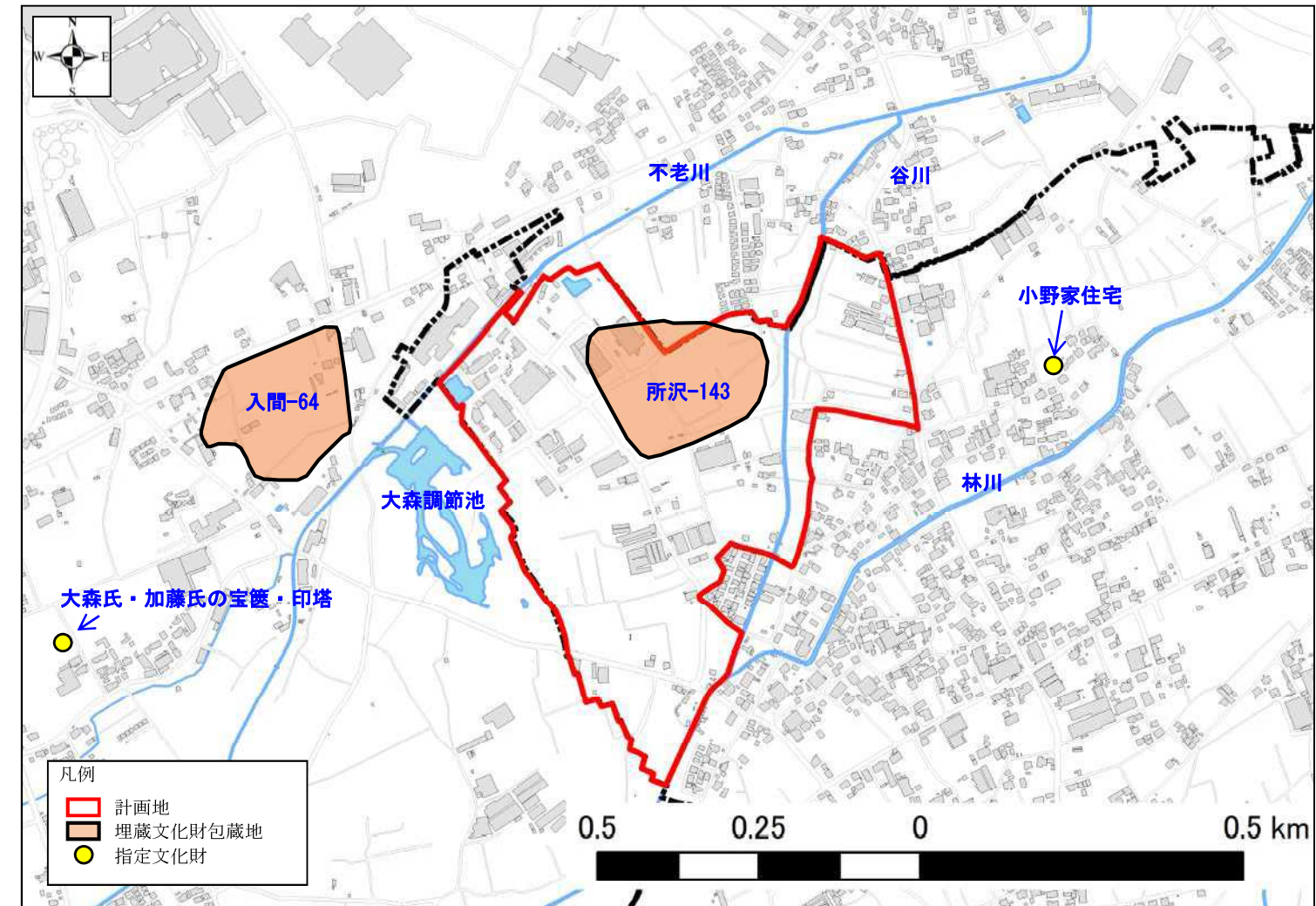
- ・計画地内に指定文化財は存在しない。計画地周辺では、小野家住宅（国指定）、大森氏・加藤氏の宝篋・印塔（入間市指定）が存在するが、計画地から離れており直接的な改変および間接的影響はない。
- ・計画地内に埋蔵文化財の包蔵地が存在する。

<調査手法>

調査内容	現地調査			文献調査	備考
	調査方法	調査地域・調査地点	調査期間等		
指定文化財及び埋蔵文化財	文化財の状況	現地踏査、聞き取り調査及び他の調査(地形、景観等)による。	1. 調査地域 対象事業により埋蔵文化財の損傷等の影響が想定される地域とし、計画地全域とする。 2. 調査地点 埋蔵文化財の存在が想定される地点とする。	下記の既存資料を収集・整理する ・埋蔵文化財包蔵地分布図	所沢市教育委員会等の関係機関との協議による。

<調査地点>

- ・計画地内に存在する埋蔵文化財の包蔵地を対象とする。



区分	調査範囲	対象道路・施設等	調査項目	選定理由等
文化財	計画地内	所沢-143	埋蔵文化財	計画地内に存在する埋蔵文化財の包蔵地として選定する。

<予測及び評価の手法>

環境影響要因		環境要素	予測の手法				
			予測内容	予測地域・予測地点	予測内容時期等	予測方法	予測の前提条件
存在による影響	造成地の存在及び樹木伐採後の状態	埋蔵文化財等	埋蔵文化財への影響の程度を予測する。	1. 予測地域 調査地域と同様とする。 2. 予測地点 調査地点と同様、埋蔵文化財の存在が想定される地点とする。	工事による影響が最大となる時期とする。	埋蔵文化財への影響は、対象事業による改変域等を把握し、調査結果と重ね合わせるにより損壊の有無及び程度を予測する。	1. 事業計画 ・地形改変の範囲、施工方法 2. 将来環境条件 ・周辺の土地利用 ・文化財の利用状況

評価の手法		
回避、低減に係る評価	基準又は目標との整合に係る評価	環境の保全に関する配慮方針
埋蔵文化財への影響の回避・低減が最大限図られているか。	以下の事項との整合性が図られているか ・「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号) ・「埼玉県文化財保護条例」(昭和 30 年埼玉県条例第 46 号) ・「所沢市文化財保護条例」(昭和 33 年所沢市告示第 35 号)	指定文化財等の利用を妨げない。 ・県、市の教育委員会と連携しつつ、文化財の保護上必要な措置を講じるものとする。